

図書館等複合施設の建設に向けた検討(7)

第4回有識者会議を開催しました

2月13日(水曜日)に第4回となる有識者会議を開催しました。
 これまでの議論を振り返りながら、基本構想に盛り込む要素について、有識者の皆様に議論していただきました。議論の内容を抜粋してお伝えします。

*会議資料・会議録は行政ホームページに掲載しておりますので、
 ご参照ください。



第4回有識者会議の様子



富山委員

地域の資料について、保存期間や保存場所が明確になっていない。新たな図書館複合施設では、資料の活用まで含めて検討してほしい。



糸賀会長

スキーや山岳、長野冬季五輪等に関する資料は、白馬を知る上で貴重な資源となる。



中澤委員

音楽・楽譜は世界の共通言語であり、新たな交流を生み出すことも期待されるため、活用を検討してほしい。



糸賀会長

音楽やアートなどを通じた言葉の壁を越える交流は、新たな施設でも積極的に試みてほしい。



山内委員

人口規模等から、図書館で1200㎡、子育て支援施設で800㎡程度とのことであるが、マンガ図書館やアートスペースなどで村外から人を呼び込もうと思うと、さらに500㎡程度は必要となる。



糸賀会長

あらゆる機能を取り入れる選択肢もあるが、全てが中途半端な施設になる可能性もあるため、機能の取捨選択は慎重に検討する必要がある。



大日方委員

海外からのお客様も含めて、多くの人が利用する「駅」の機能も活用できるあり方を検討してほしい。



糸賀会長

駅の中に図書館の分館を設置する自治体も増えてきている。駅で本を借りたり返したりすることを希望する利用者も考慮しても良いのではないか。



松沢副会長

予算規模・施設規模を踏まえて「利用しやすい図書館機能」を基本に考えなければならぬ。その上で、村内外の人々が集まるコミュニティ機能も考えていくことが望ましい。



糸賀会長

複合施設の柱となる「交流」という観点

において、図書館程最適な場所はない。本や雑誌、新聞を読むために多世代が集まる。音楽やアートも交流手段となる。交流を生み出す仕掛けと席の配置も重要である。



奥田委員

複合施設の整備によって、村として何を目指すのか。



糸賀会長

図書館として「知る」、「学ぶ」ということが主体となるはずであるが、本を借りて返すだけの所ではなく、館内ですっかり「調べ」、十分な満足感を持ち帰っていたり「滞在型の施設」を目指さなければならぬ。



岡田委員

コンセプトの設定は重要。ワークショップで出されたインキュベーション(創業支援)機能や、アート分野では芸術祭やフェスティバルの開催を検討してほしい。

さらに、司書や学芸員などの専門家を育成すること、東京五輪に合わせて駅舎等を活用したPRイベントなどを展開できれば、潜在的な人材の掘り起こしや村民と観光客の顔の見える関係づくりにつながるのではないかと。





糸賀会長

機会を捉えてイベントを開催することは、新たな複合施設の方向性を村民や観光客に示し、関心を高めることにつながる。



山内委員

複合施設の方針に併せて、マンガを選書することは可能。床面積にかかわらず、地域に縁のある著者の作品や、スキーや山岳など白馬に関連するものを設置できる。



糸賀会長

他の自治体では、図書館施設において曜日単位で各診療科の往診や健康チェックを実施している例がある。気軽に訪れる図書館で医療や健康の相談をしようという仕組みを取り入れてみるのは良いことである。

さらに、家庭医学や医学書の情報を図書館司書が調べ文献等を提供するサービスを行う図書館が増えている。病について自身も家族も知ること、相談・受診の際の質が高まることが期待されている。

法律相談や教育相談など他の分野も同様で、事前に図書館で知識を得てから相談することは効率的である。

「知る」、「学ぶ」、「集む」ことで新たな施設の利便性や有効性を感じてもらうことが目的となる。



松沢副会長

建設場所については、非常に重要な問題であるため、検討及び合意形成のプロセスを丁寧に進めてほしい。



奥田委員

図書館に頻繁に行くことが難しい人たちのために、ネットワークシステムで予約ができ、その書籍を家の近くまで配達するなど、今以上の貸出サービスの充実を検討してほしい。



糸賀会長

予約した本を受け取ったり、返却できなかったりする「サテライト・ライブラリ」を村内に複数個所設置するのも1つの方法である。それが学校や公共施設であっても良い。学校図書館を利用すれば、学校司書とも繋がりができ、村の図書館と学校図書館との連携の実現も可能となり、白馬村独自の新しい図書館サービスができるのではないだろうか。都市部では実現不可能なサービスを、ぜひ白馬村で実現してほしい。

(*欠席…多田委員)

■有識者の紹介



【図書館】
糸賀 雅児 会長
慶應大学名誉教授



【子育て】
多田 千尋 委員
東京おもちゃ美術館 館長



【音楽】
中澤 宗幸 委員
㈱日本ヴァイオリン 創業者



【山岳】
松沢 貞一 副会長
㈱白馬館 代表取締役社長



【アート】
岡田 勉 委員
スパイラルシニアキュレーター



【マンガ】
山内 康裕 委員
マンガナイト 代表



【教育】
奥田 純子 委員
北陸大学経済経営学部助教



【交通】
大日方 悦夫 委員
JR 東日本 白馬駅長



【検討委員会】
富山 正明 委員
白馬村図書館検討委員長

4月号において、策定した基本構想の概要をお伝えする予定です。

来年度は、基本構想を基に、運営や財源等の観点から実現可能性を考え、取り入れる機能や施設、建設候補地、官民連携を含めた運営体制等について検討し、基本計画を策定します。

新たな図書館等複合施設に関するご意見やご不明な点がございましたら、お気軽にご連絡ください。

